# Infomation お知らせ

## データで振り返るまちカフェ！～来場者アンケート編

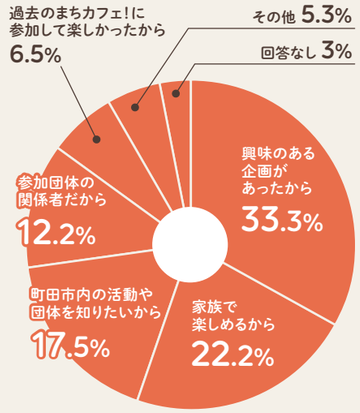
2022年11月26日～12月4日にかけて行われた第16回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」（以下まちカフェ！）は、市庁舎会場及び市内各所でのイベント開催を行い、総勢9,512人の方にご来場いただきました。

サポートオフィス通信の本号と次号では、次年度につながる視点を今年度のまちカフェ！のアンケートデータを元に紹介します。今回は、まちカフェ！にお越しいただいたご来場者のみなさんのアンケート結果を元に、まちカフェ！を振り返ります。

※まちカフェ！来場者アンケート：2022年11月26日～12月4日日実施。計381件の回答をいただきました

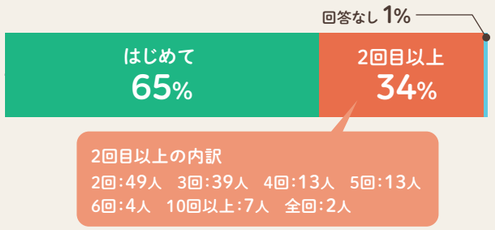
### DATA 01 まちカフェ！来場理由

「興味のある企画があったから」が33.3％と一番多く、「町田市内の活動や団体を知りたいから」という方も17.5％いらっしゃる結果に。参加団体の趣向を凝らした企画や活動内容に関心を持った方の来場が多かったことがわかります。



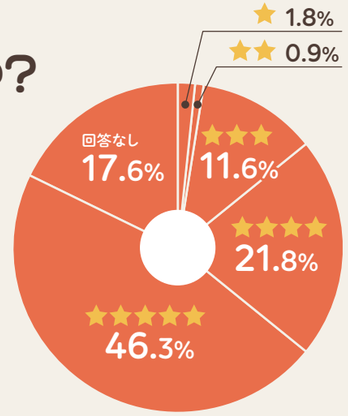

### DATA 02 これまでのまちカフェ！来場回数

まちカフェ！に今回初めて来られた方が実に65％で、参加団体にとっても、新しい出会いの場になったことがわかります。団体の活動紹介だけではなく新規メンバーの募集の場としてもまちカフェ！を上手に活用できそうですね。




### DATA 03 まちカフェ！の満足度は★いくつ？

星4つと星5つを合わせると約68％の方に「イベントに参加して満足だった」と評価いただきました。団体の得意やアイデアが生かされたオリジナリティあふれるイベントが実施されるのも、まちカフェ！の特徴の一つです。次年度以降も地域活動のユニークさを生かしたイベントを開催することで、多くの方に地域活動の醍醐味やその魅力を伝えられる機会になるのではないかと思います。




**まちカフェ！期間中の来場者数**

合計9,512人

内訳
- 市役所会場（11/26） 5,650人
- 11/26以外の市役所会場、市内各所開催イベント 3,862人

**イベント開催数**

合計94件

内訳
- 市内各会場 24件
- 市役所会場 68件
- オンライン 2件

本誌に掲載しきれなかった来場者アンケートの全データは右記2次元コードのリンク先で紹介しています。
次号では、まちカフェ！参加団体のみなさんから寄せられたアンケート結果からまちカフェ！を振り返ります。
どうぞお楽しみに。


町田市地域活動サポートオフィス
info@machida-support.or.jp



町田市地域活動サポートオフィス　検索
＼公式SNS更新中／
www.machida-support.or.jp
042-785-4871　受付時間　月曜日から金曜日 午前9時から午後6時（毎月第三水曜日は午後5時まで）



町田市地域活動サポートオフィス

まちだづくりのコミュニケーション誌

# サポートオフィス通信

2023 February Vol.35

撮影：北村友宏氏

**Now** WAM助成応募説明会を実施しました

**Topics** 団体の強みを生かした助成金申請書作成のポイント

**Information** データで振り返るまちカフェ！～来場者アンケート編

▲対面の会場は町田市市民協働おうえんルーム。たくさんの質問が寄せられ、熱気に満ちた2時間となりました。

# Now 近況報告

## WAM助成応募説明会を実施しました

1月12日、独立行政法人福祉医療機構（WAM）が実施する助成プログラム「WAM助成」の応募説明会・相談会を実施しました。

WAM助成※1は、NPO法人などの民間の創意工夫のなされた福祉活動等に対し、その事業の立ち上げを支援するとともに、全国的・広域的活動への発展を図ることを目指している助成プログラム。対面・オンラインのハイブリットで開催された本説明会には58名の方が参加されました。

まずサポートオフィスより地域活動・市民活動の財源の全体像、助成金の特徴※2、申請書を書く際のポイントを解説。その後、WAM助成担当の渡真利紘一氏よりプログラム内容や申請に向けての留意点をご説明いただきました。質疑応答の後は、個別相談を実施しました。

団体活動に効果的に取り入れたい助成金。公募は毎年春と秋に集中して行われます。申請書には事業の今後の計画や資金計画等を回答する項目も多く設定されていますので、今の時期から公募への準備を進めておくことをおすすめします。

※2 助成金の特徴

説明会では、助成金の大きな特徴として「助成団体は資金を出すことで自分たちと一緒に目的を達成するパートナーを探している。助成を受ける団体は、助成団体に活動を資金援助してもらうのではなく、**めざす地域や社会を一緒に実現するパートナーになるという想い**で申請書をまとめていこう」と解説されました。

※1 WAM助成の詳細は、下記よりご参照ください。（今年度の募集は終了しております）
https://www.wam.go.jp/hp/cat/wamjosei/


次ページからは、助成金申請書づくりのポイントをご紹介します。ぜひご参考にしてください。

Topics 特集

# 団体の強みを生かした 助成金申請書作成のポイント

多くの申請書には、団体の活動内容だけではなく、
助成金を得て事業をどのように継続し発展させていくかなどの展望を書く項目があります。
提出締切日直前に焦らないよう、
今から下記のポイントを念頭に置きながら準備を進めていきましょう。
サポートオフィスでは、助成プログラムの紹介だけではなく、団体の目指す姿を話し合いながら、
申請書を書くアドバイスをさせていただいております。お気軽にお問合せください。

## POINT 01 地域活動・市民活動の多様な財源とその特徴を理解する

非営利活動団体にとって「財源」は資源の一つであり、全てではありません（※1）。また、財源は下記で紹介しているように多様な種類があります。今、自団体に「本当に必要な資源」はなにか、もし「財源」が必要であれば、どの種類の財源を確保するといいのかをしっかり考えるところから始めましょう。

| 多様な財源 | 良いところ | 大変なところ |
|---|---|---|
| 会 費 | 仲間が増える。<br>使い道が自由。安定的。 | 1人当たりの金額は少額。<br>寄付者や会員管理などの対応が必要。 |
| 寄 付 | 応援する人が増える。<br>使い道が比較的自由。 | 寄付が集まりやすい事業とそうでない事業がある。 |
| 事業収入 | 軌道に乗れば比較的安定的。<br>使い道が自由。 | 団体の本来の事業目的以外の対応で忙しくなったり<br>設備投資などがかかったりすることもある。 |
| 補助金<br>助成金 | 比較的まとまった金額を得ることができる。<br>団体の信頼が高まる。 | 使途や期間に制限があり、終了時に報告書作成等が<br>求められる。助成金のための新たな事業を実施する<br>ことで、結果的に持ち出しになってしまうことも。 |
| 委 託 | 大きな金額を得ることができる。<br>信頼が高まる。 | 事業内容に制約がある。<br>継続することが確約されていない。 |
| 融 資 | まとまった金額を借りることができる。<br>NPO等への融資を行う金融機関が増えている。 | 返済が必要で、利子がかかる。<br>審査がある。 |

※1 財源以外にも人（スタッフやボランティアメンバー）、物（設備や備品）、場所などの資源も活動には重要です。

## POINT 02 助成金申請に最適なタイミングは『新規事業立ち上げ期』と『仕組み化・普及発信期』

助成金は、通常1年もしくは2～3年と期限が決まっています。つまり、団体が普段行っている活動の継続のために助成金を活用することは難しいです。一方、**『新規事業の立ち上げ』や『事業の仕組み化や普及発信』などを行う期間は、助成金を生かす良いタイミングです。**申請書を書く前に、「事業は今どのタイミングにあるか？」を考えてみましょう。

## POINT 03 8つのコツを押さえて、メンバーと共に申請書を書いてみる

助成金額の多い助成プログラムほど、申請書の記載項目も多くなりますが、その多くは、「助成金を得て進める事業を、どのように発展的・継続的に行っていくか」について回答する項目です。**申請書をまとめることは、団体のメンバーと共に事業の棚卸や整理だけでなく、事業の未来について話す機会としても活用できる**メリットもあります。下記8つのコツを参考に、申請書づくりを事業の組織力・運営力を高めるきっかけにしてください。

### 1 助成プログラムの狙いを理解する

募集要項を読み、助成団体が示す重点ポイントを押さえましょう。説明会への参加や不明点を直接助成団体へ問い合わせるのもおすすめです。

### 2 助成金は団体が困っていることを助ける資金ではないと理解する

申請書に書くべきことは、「社会、地域、当事者の困りごとや事業から生み出す新しい価値について」です。「自分たちの地域は●●だから▼▼が必要だ」と課題を踏まえた事業プランを書くといいでしょう。

※一部の助成プログラムには、組織の基盤強化を対象にした助成もあります。

### 3 目的→課題・要因→実施内容→成果がきちんとつながっているかを確認する

助成団体側は、一定期間に応募された申請書を数多く読みます。因果関係がきちんと整っている申請書は読み手に伝わります。

### 4 できる限り「自団体だから把握できた課題」について具体的に書く

社会的認知の進んでいない課題を伝えることも現場で活動している団体だからこそできることです。

### 5 自団体の事業の一番の「強み」を考える

他の団体にはない自分たちの強みをしっかりと把握し謙遜せず、団体の強みやユニークな点を申請書に反映させましょう。

### 6 助成期間終了後の継続方法を意識する

助成団体は、助成期間終了後、地域や団体の中で事業が続く体制や仕組みになっているかを最近特に注目しています。

### 7 第三者に読んでもらう

専門用語を多用していませんか？誰が読んでもわかりやすい文章や構成になっているかを意識しましょう。

### 8 時間に余裕をもって申請書を作る

普段の活動をしながらの申請書作成は想像以上に時間がかかります。提出日から逆算してスケジュールを立てましょう。

## POINT 04 地域密着の少額の助成金からチャレンジする

毎年たくさんの助成プログラムの公募がありますが、応募のテーマや金額規模など、自団体の活動に合った助成プログラムに応募することが大切です。応募が初めての団体は、地域密着の少額の助成金を探してみるといいでしょう。また資金ではなくても、全国にその活動を広くアピールする機会になる「表彰」の募集もあります（賞金がでる表彰もあります）。自分たちの活動に応じて助成プログラム以外の情報収集をすることもおすすめです。

### 表彰のプログラムに応募した事例

表彰プログラム「公園・夢プラン大賞2022」で優秀賞を受賞したNPO法人子ども広場あそべこどもたちのみなさんに応募動機や受賞後のお話を伺いました。ご参考にしてください。

### 助成金情報を検索できるサイト

全国規模の助成金情報を中心に、
募集時期やテーマなどで検索することができます。

▶CANPAN

▶公益財団法人 助成財団センター

## POINT 05 申請書を書いた団体・採用された団体の話を聞いてみる

知り合いの団体の方などに、助成金の申請の有無や申請書のまとめ方の工夫などを聞いてみることもおすすめです。応募要項だけではわからない各プログラムの特徴などを知る一手になります。

### みんなの経験共有会 実施報告

サポートオフィスが開催したみんなの経験共有会「助成金にチャレンジしてみた！」では、実際に助成金で事業を進めた経験のある3団体の方にお話を伺いました。助成金申請のコツもたくさん紹介いただきましたので、右の2次元コードよりぜひご覧ください。